

都心5区の賃料推移発表

中央区が4カ月連続で最高値更新

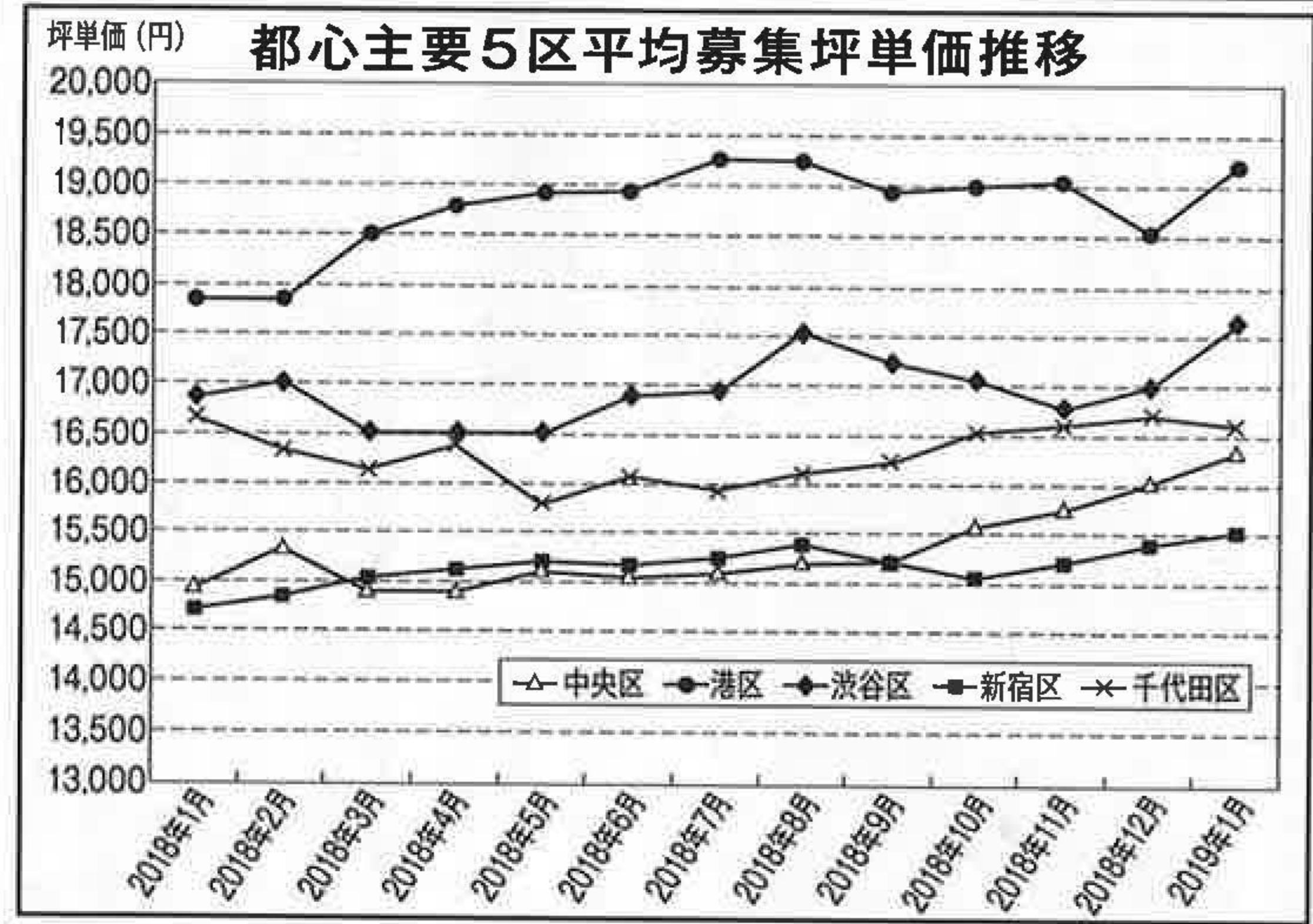
LMC



リーシング・マネジメント・コンサルティング
(東京都港区)
齋藤晃一社長(42)

賃貸不動産のマーケティングサービスを提供するリーシング・マネジメント・コンサルティング(LMC:東京都港区)は2月28日、都心主要5区における1月末時点での『賃貸マンション坪単価推移・礼金推移』を発表した。都心主要5区とは中央区、港区、渋谷区、新宿区、千代田区。同社の賃貸マーケットデータファイル・エリア版をも

とに作成した。2008年12月以降に竣工したRC・SRC造マンションタイプでのマンション募集坪単価、および募集礼金は、中央区、港区、渋谷区、新宿区にて上昇、千代田区では下落となった。各区の平均募集坪単価の前月比は、中央区がプラス316円の上昇で1万6384円、集計開始以来、4カ月連続で最高値を更新した。渋谷区でプラス651円、新宿区でプラス139円とそれぞれ最高値を更新した。港区でプラス651円の



た。前年同月比は、千代田区にて下落、そのほか

中央区の平均募集坪単価が最高値を更新している要因について、同社の齋藤晃一社長は「募集戸数の内、新築の比率が約66%と高く、新築物件を中心に坪単価1万7000円以上の募集戸数の割合が増加している」と分析した。

また渋谷区は、平均坪単価約2万4000円の高級物件の募集が開始され、新築の平均坪単価が1万8308円と全体の平均を押し上げた。新宿区については、新築物件を中心に坪単価1万7000円台の募集割合が増加したことを指摘した。